

団体名

「犬飼川水辺の楽校」の活用を考える会

代表者

近藤 美子

記載者

妹尾 朋広

所在地(市区町村名のみ)

浅口市鴨方町

活動目的

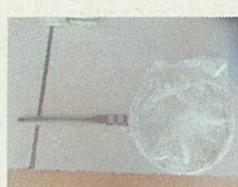
「犬飼川水辺の楽校」体験農園を有効活用を図る。鴨方西小学校の児童に対して、地域の財産である手延べうどんづくりの理解を図るとともに、体験活動を通じて地域を愛する心情を育てる。

団体の紹介

浅口市立鴨方西小学校区の犬飼川に、平成9年に「犬飼川水辺の楽校」プロジェクトが国の補助を受けた県の事業として発足した。これを受けて、犬飼地区的住民と浅口市及び鴨方西小学校は協力して、「水辺の楽校」を通じて子どもたちに自然体験や自然学習を積極的に行ってきました。特に、鴨方西小学校の児童に農業体験の場を与えてきた体験農園は、「水辺の楽校」の中核となっている。農園の管理と体験指導は、主に地域住民のボランティアによる指導員にお願いしてきた。体験農園は現在、鴨方西小学校の特色ある教育活動になっている。

助成を受けての活動内容

- 今回助成を受けたのは、体験農園での活動の中でも最も地域の特色が分かる活動である「小麦栽培」とその小麦を使った「手延べうどんづくり」のための道具である。助成金で次のものを買わせていただいた。うどんをこねるための「こね鉢」12個とほし生地を切るための「麺切り包丁」12本、茹でうどんをすくうための大型の「讃岐たも」1本である。



- 小麦栽培は、前年度の11月に体験農園に4年生が種を蒔くところから始まる。2月には育ち始めた小麦の苗を踏む、いわゆる「麦踏み」を行う。今年度5年生になった児童は刈り取りまでの間、毎月草取りを行ったり、網を張ってすすめの被害を防いだりした。6月半ばの梅雨の晴れ間に小麦の収穫した。収穫した小麦は、体験農園の指導員が数ヶ月乾燥させた後、製粉所に持ち込み小麦粉にしてもらった。



- 手延べうどんづくりは、二日がかりで行った。初日は、麺の生地づくりである。小麦粉をこね鉢でこね、生地ができたらビニール袋に入れて、児童が交代交代に足で踏み麺にこしが出るようにする。二日目は、麺を伸ばし切ったら、児童が一本一本手延べをする。その後、PTAの役員が茹でて、全員で試食をした。こしのあるおいしいうどんにみんな舌鼓を打った。



助成を受けての成果

- 助成金で購入したこね鉢と麺切り包丁は、児童が直接手延べうどんづくりに使用することができた。それまでは、ポウルや普通の包丁を使用していたので、体験を通して児童はより本物の手延べうどんづくりを味わうことができた。麺切り包丁は、通常の包丁より重く扱いは難しいが、麺の切れ方がきれいで、体験後の児童の感想を読むと感動した様子が伝わってきた。

今後の活動の課題点

- うどんを茹でる設備が本校にはなく、釜やバーナーは浅口市や鴨方町手延素麺生産者協議会会長の最上製麺さんにご協力いただき借用している。茹でる作業もPTAの役員や地域の製麺関係の方、おかやま山陽高等学校の生徒に助けてもらっている。地域の協力なくしては続けられない活動なので、「犬飼川水辺の楽校」の活用を考える会・鴨方西小学校と地域とのつながりは今後とも大切にしていきたい。

問い合わせ連絡先もしくは、ホームページアドレス(加入希望の方などへのお知らせなど)

浅口市立鴨方西小学校 TEL: 0865-44-2015 FAX: 0865-44-0811 E-mail: teacher@ns1.kamogatanishi-e.ed.jp
ホームページアドレス: <http://ns1.kamogatanishi-e.ed.jp/>

※ このページは、財団ホームページや印刷物などで公表される資料として使用される場合があります。

A4用紙1枚程度におまどめください。(他の報告書との重複可)

写真・チラシ・パンフレット(PDFもしくは、画像)等を添付していただいても結構です。



伝統を受け継ぐ！

1月28日には、鴨西小の伝統行事である「手延べうどん作り」があります。5年生がリーダーとなって行われます。本番を前にして、5年生が試作をしました。うまくできるか、ドキドキの二日間でした。

[1月16日]



水辺の楽校体験農園で育てた小麦を教頭先生が製粉してくださいました。

今年度は、マルセンスポーツ・文化振興財団からの助成金で買った本格的な鉢でこねます。

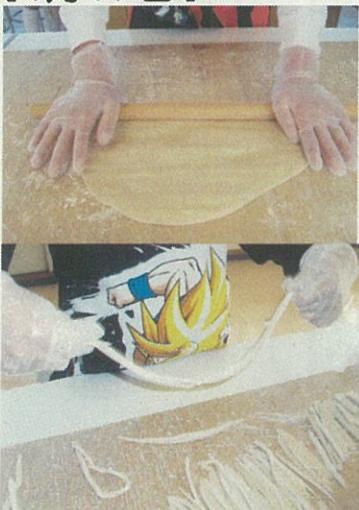
気分は「うどん屋さん」です。

みんなで交代しながら生地を踏みます。“こし”のあるうどんをめざして！



生地を一晩寝かせます。

[1月17日]



一晩寝かせた生地を延ばします。

均等に延ばすのは難しいですが、チャレンジあるのみ！

延ばした生地を切ります。
指を切らないように、「猫の手」で、慎重に・・・

切った生地を
くるくる
くるくる
目標は、「細く！長く！」



ゆで加減はどうでしょう。
相談しながら進めます。



できました！
つやつやのうどんです。

本番では、おかやま山陽高等学校の生徒さん8名がボランティアで協力してくださることになっています。

保護者のみなさま、28日には、子どもたちと「うどん作り」を楽しみましょう。

(文責 近藤美子)